

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	12	大学等名	八戸工業大学
テーマ	テーマⅡ 学修成果の可視化		

### 【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

### 【コメント】

<優れている点>

- ・申請時の大学改革7課題を「高大接続改革推進事業」の趣旨を踏まえて5課題に組み替え、入口から出口までの教育の質保証スキームを構築し、事業を継続的に実施していることは評価できる。また、授業評価満足度、ポートフォリオ活用率の上昇等から改革は加速されたと判断できる。
- ・教員間共有のためのルーブリック評価集の開設、教員間相互点検による成績評価の平準性の確保、20項目にわたるきめ細かい授業評価など、教育改善の取組は着実に進捗している。特に、「社会が期待する卒業時学生が身に付ける能力」の達成度測定に関する修得因子20による在学中・卒業後・企業のアンケート分析については評価できる。
- ・学内の実施体制については、学長を中心として各種委員会・推進室が階層的に、かつ適切に整備されている。評価体制についても、学生・教員・取組実行組織・AP事業の4つのレベルで自己評価体制が組み立てられており、評価できる。
- ・工学教育研究講演会等での報告を多く行っており、事業成果の普及に努めている。また、補助期間終了後も体制面、資金面で事業の継続は見込まれる。特に、大学教育再生加速プログラム事業推進室の設置や学修成果の可視化データベースの構築は、事業の継続・発展の大きな力となると考えられ、評価できる。

<改善を要する点>

- ・ナンバリングの早期実施が求められる。また、退学率、授業満足度アンケート実施率、学修行動調査実施率等の改善も早急に図っていく必要がある。
- ・出版物や公開フォーラムによる他大学への普及にも努める必要がある。